

実践報告 3

CAN-DO リストの活用と授業目標の工夫

ー学習意欲の向上を目指してー

県立豊野高等学校 教諭 清水 雅史

1 はじめに

CAN-DO リストの作成によって、各校で生徒の学習到達目標が設定された。これによって、授業内のコミュニケーション活動が活性化され、パフォーマンステストなどにより、生徒自身も教員も生徒の英語力を客観的に測れるようになり、4技能(5領域)の育成のための目標設定もしやすくなった。

しかし、本校の現状は、日頃の英語の授業におけるコミュニケーション活動の目的が明確でなく、パフォーマンステストの内容や方法においても、CAN-DO リストの学習到達目標を達成させるための工夫はするものの、3年間を見通した実施には至っていない。

そこで本実践では、CAN-DO リストの活用を通して、生徒の英語学習への意欲を高めさせる方策を探ることとした。本校生徒の大半は英語を不得意とするが、苦手意識を克服し、英語学習に対して前向きな姿勢を身に付けさせ、生徒の学力向上と英語によるコミュニケーション能力の育成を図りたいと考えた。

2 生徒の実態

本校第1学年の生徒120名に対し、英語に関する調査を3回実施した。1学期中間考査後(平成29年5月)に初回を実施し、中学時代に関する内容も併せて調査した。

① 英語は好きですか。

	好き	やや好き	あまり好きでない	好きでない
中学時代	12.0%	33.3%	35.0%	19.7%
1学期中間考査後	20.5%	42.7%	26.5%	10.3%

② 英語は得意ですか。

	得意	やや得意	あまり得意でない	得意でない
中学時代	6.8%	21.4%	33.3%	38.5%
1学期中間考査後	6.0%	33.3%	47.0%	13.7%

③ 伸びたと思う技能(複数回答可)

	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
中学時代	23.9%	7.7%	30.8%	29.9%
1学期中間考査後	13.7%	27.4%	23.1%	21.4%

④ 今後特に身に付けたい技能を一つ選びなさい。

	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
1学期中間考査後	16.2%	41.0%	9.4%	33.4%

(1) 調査結果について

まず、中学時代の英語学習について、質問①②の回答から、英語に対して苦手意識を感じていた生徒が多いことが浮き彫りとなった。また、質問③の回答から、中学時代に英語を話す力が伸びていないと感じている生徒が多いということも分かった。

1学期中間考査後について、質問①の回答から、英語を前向きに捉える生徒の割合が60%以上いることが分かった。また、質問③の回答から、入学して1か月ほどであったが、話す力が身に付いたと感じる生徒がおよそ20%増加したこと、質問④の回答から、「話すこと」「書くこと」といったアウトプットの技能を伸ばしたいと感じる生徒が大半であることが分かった。

(2) 結果の分析

1か月程度の短い期間で、入学当初よりコミュニケーション活動を積極的に行ってきたことにより、英語に対する意識を多少改善することができたと考える。特に、コミュニケーション活動を積極的に行っているクラスでは英語に対する意識の改善が顕著であった。実際に英語が「好きだ」と回答した生徒の理由をアンケートの記述欄で確認すると、多くの生徒が「授業が楽しい」「分かりやすい」と回答していた。授業内でのコミュニケーション活動が、生徒の英語に対する前向きな姿勢や学習意欲の向上につながる大きな要因であったと考えられる。

そこで、3年間の学習到達目標や単元の目標を示すことにより、生徒に見通しをもって英語学習に取り組ませ、学習意欲の向上につなげようと考えた。

3 研究の目的

1年終了時の学習到達目標の達成に向けて、各単元の位置付けを確認し、毎回の授業の目標を明確にすることで4技能をバランスよく育成する。また、生徒にとって「楽しい授業」とは、どのようなものであるのかを検証・考察し、生徒の充実感や達成感につながる指導の在り方を探る。

4 研究の仮説

研究の目的を達成するために、次のような仮説を立てて検証することとした。

仮説1：CAN-DO リストと単元の目標をリンクさせ、毎回の授業で目標を整理して伝えることで、生徒の学習意欲の向上につながるであろう。

仮説2：授業でのコミュニケーション活動や、パフォーマンステストによるフィードバックを充実させることで、学びの楽しさや達成感につながる指導が可能になるであろう。

5 研究の方法と内容

研究の仮説を検証するため、コミュニケーション英語 I の授業を中心に、以下の方法で実践を行うこととした。

(1) CAN-DO リストと単元目標を明確にする手だて

ア 豊野高校 CAN-DO リストについて…資料B (p. 9 参照)

(ア) 生徒全員に配付する。

(イ) 言語活動を行う際に、必ず4技能の該当項目を確認させる。

イ 単元の目標・観点別評価一覧について…資料A (p. 8 参照)

(ア) 各単元の始めに、生徒全員に配付する。

(イ) 授業の始めに、生徒に目標を確認させる。

(ウ) (イ)の際に、CAN-DO リストの関連項目について教員が説明し、つながりを意識させる。

(2) 言語活動を充実させるための手だて

ア コミュニケーション英語 I

(ア) 「コミュニケーションカード」を用いたペア・ワーク…資料C (p.10 参照)

(イ) 各パートの要約を作成・発表するグループ・ワーク…資料D (p.10 参照)

(ウ) グループ・ワークによる意見の発表…資料E (p.10 参照)

- ① もち寄った意見をグループ内ですり合わせて、発表内容を作成させる。
- ② 各グループで発表する。
- ③ 評価シートに、自己評価及び相互評価を記入させる。

イ 英語表現 I

毎回テーマを与えて英作文を書かせる。

ウ パフォーマンステストの実施

ペアによる会話（英語によるやり取り）

(3) アンケートによる生徒の意識変化の調査

ア 実施時期

1学期中間考査後（5月）、1学期期末考査後（7月）、2学期中間考査後（10月）

イ 主な調査内容

英語が好きな度合い、英語が得意な度合い、生徒が伸びたと実感する技能

6 授業実践

1 単元名 Lesson 3 Yanase Takashi : The Creator of Anpanman			
2 単元の目標 アンパンマンについて、作成から人気を博すまでの過程を理解し、やなせたかし氏のヒーロー像に迫る。 グループで説得力のあるプレゼンテーションを作成・発表することができる。			
3 単元の評価規準			
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
本文について、ペア・ワークで自分の意見を伝えたり、相手の発表を理解したりしながら聞いたりする。	本文中の表現を他の表現で言い換えたり、写真やイラストを英語で説明したりすることができる。	本文を読み、概要や要点を理解することができる。	受動態, SVOO, SVOC, SVO (O=that-節, wh-節, 疑問詞+to 不定詞)の用法を理解している。
4 単元の概要と言語活動 本単元は、「アンパンマン」が人々に受け入れられるに至った経緯について、やなせ氏の生い立ちを踏まえて書かれている。本文の内容を英語で要約したり発表したりすることで、魅力的なキャラクターについてグループで考えさせ、英語によるプレゼンテーションを行うことで相手に伝える力を養う。			

【単元のCAN-DO】

話すこと		書くこと		聞くこと		読むこと	
学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法
・アンパンマンのキャラクターについて、アイコンタクトを意識しながら相手に分かりやすく発表することができる。	・プレゼンテーション	・アンパンマンのキャラクターについて、50語程度のまとまった英文で記述できる。	・ワークシート	・音声を聞いて概要を理解できる。	・本文 T/F 問題 ・プレゼンテーション	・本文の速読や精読を通して、内容を把握できる。	・補助教材(ベーシックノート)

5 単元の指導計画（全8時間） ※1時間：50分

段階 (時数)	学 習 活 動 (生徒)	言語活動に関する指導上の留意点 (教員)
第1次 (1)	【イントロダクション】 ・ペアでの会話活動	・アンパンマンのキャラクターに成り切らせて、会話活動を行わせる。
第2次 (5)	【各パート内容理解】 ・音声による本文の概要把握 ・速読による T/F 問題の確認 ・キーワードの意味の類推 【自分の考えの発表】 ・日本語での要約⇒英語での書き出し ・ペアでの発表練習	・前後の文脈を意識しながらキーワードの意味をグループで類推させる。 ・文構造などを適宜伝えながら類推のヒントにさせる。
第3次 (2)	【プレゼンテーション】 ・アンパンマンを助けられる最適なキャラクターをグループで一つ選び、オリジナリティを交えて説得力のある英語のプレゼンテーションを作成する。 ・単元の CAN-DO を意識してグループ内で発表の練習をする。 ・グループのメンバー全員が別のグループにおいて交代で発表する。 ・聞き手は発表者の評価を評価シートに記入する。発表者は CAN-DO 項目を意識して自己評価をする。	・アンパンマンが窮地にある状況を設定し、単元の始めに配付した登場キャラクターの一覧から選ばせる。 ・説得力をもたせるように、選んだキャラクターの特徴などを具体的に書かせる。 ・単元の CAN-DO のポイントを事前に説明し、発表時に意識させる。ALT にも評価で協力してもらおう。 ・発表後に生徒同士で評価させ、一番よかったグループを選ばせ、その理由を述べさせる。

6 コミュニケーション活動の充実の工夫

本単元では、「読むこと」「書くこと」「話すこと」「聞くこと」を有機的に結び付けることをねらいとしている。特に、プレゼンテーションでは自分の考えを明示した上でその理由や具体例を述べるなど、構成上の工夫をすることで、論理的に表現する力を養うことを目標とする。

【第3次の学習活動と留意点】

- ①〈書く内容を明確にする〉グループでアンパンマンを助けられる最適なキャラクターを選ぶ。
- ②〈アウトラインを作る〉なぜ最適であるのか理由を具体的に書き出す。
- ③〈発表の形にして書く〉つながりを示す語句を利用して論理的な構成となるように作成する。
- ④〈グループ内で発表の練習をする〉書いた内容をグループ内で互いに読み合い、読み手に伝わりにくい点を中心に指摘し合う。その際、内容を伝える上で支障があるような誤りについて取り上げ、クラス全体で共有する。
- ⑤〈書き直す〉他の生徒から指摘された点について再考させることで気付きを促し、書いた内容を推敲する。最終的にグループで一つの発表を作り上げる。
- ⑥〈発表する〉聞き手に伝わるように発表を行うことを意識させる。CAN-DO リストの学習到達目標についても説明し、話し手も聞き手も目標を意識しながら活動する。各グループから発表者を選出し、他のグループへ移動して発表する。発表後に他のグループから評価をもらい、改善点を自分のグループのメンバーに伝える。次の発表者はその改善点を自分の発表につなげる。このようにして、グループ内で発表者を交代しながら全員の生徒が2～3回発表できる機会を設ける。

7 研究の実際と結果の考察

(1) 実践中の様子

右の写真は、第1次において質問カード (p.10 **資料C**) を基にペアを交代しながら行った会話活動の様子である。毎回1組のペアに発表させ、1学期末にはこれを基にパフォーマンステストを行った。1学期当初は質問に答えるだけであったが、1学期末には、表現に困っても笑顔で会話を続けられるようになった。その後、相手の質問に必ず **Yes, but ...** と答えるような条件を加えて活動を繰り返すことで、より多くの情報を付加できるようになり、会話がいつそう弾むようになった。



【ペアで会話を続ける様子】

また、右の写真は、第3次における**資料E** (p.10) を用いたグループ活動の様子である。最初に CAN-DO リストの「あらかじめ、自分の考えや説明をまとめ、それを聞き手に伝わるように発表することができる」という目標を提示したことで、グループで考えを出し合い、説得力のある内容や聞き手にとって分かりやすい表現を工夫していた。また、ルーブリックを意識して発表の練習をする姿も見られた。生徒の感想からは、「内容が各班全然違っていておもしろかった」「英語の発表を聞きながら笑ってしまうほどでした」等、前向きな感想が多数見られた。一方で、「次回はもっとアイコンタクトやオリジナリティにも工夫したい」「表現をもっと聞いて分かりやすい発表にしたい」等、今回の CAN-DO を意識した振り返りも見られた。



【グループ活動の様子】

(2) 生徒アンケートの結果分析

2学期中間考査後（平成29年10月実施）までの3回の調査結果は以下のとおりである。

① 英語は好きですか。

	好き	やや好き	あまり好きでない	好きでない
1学期中間考査後	20.5%	42.7%	26.5%	10.3%
1学期期末考査後	35.6%	50.0%	12.7%	1.7%
2学期中間考査後	31.5%	50.0%	16.0%	2.5%

② 英語は得意ですか。

	得意	やや得意	あまり得意でない	得意でない
1学期中間考査後	6.0%	33.3%	47.0%	13.7%
1学期期末考査後	11.0%	55.1%	28.8%	5.1%
2学期中間考査後	11.0%	51.7%	32.2%	5.1%

③ 伸びたと思う技能（複数回答可）

	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
1学期中間考査後	13.7%	27.4%	23.1%	21.4%
1学期期末考査後	12.8%	39.3%	39.3%	33.3%
2学期中間考査後	12.7%	39.0%	33.9%	38.1%

④ 今後特に身に付けたい技能を一つ選びなさい。

	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
1学期中間考査後	16.2%	41.0%	9.4%	33.4%
1学期期末考査後	18.8%	37.6%	13.7%	29.9%
2学期中間考査後	18.6%	36.5%	7.6%	37.3%

⑤ 学習の到達目標や CAN-DO リストの提示は学習意欲の向上につながりましたか。

	つながった	ややつながった	あまりつながっていない	つながっていない
1学期期末考査後	27.7%	55.5%	14.3%	2.5%
2学期中間考査後	27.1%	51.7%	20.3%	0.9%

質問①②の回答から、英語が「好き」「やや好き」、「得意」「やや得意」と答える生徒が大幅に増えた。質問③の回答から、「話すこと」「読むこと」「書くこと」において、それぞれ10%以上上昇した。質問④の回答から、「話すこと」「書くこと」を伸ばしたい割合が依然として高い。質問⑤の回答から、学習の到達目標や CAN-DO リストの提示を学習意欲の向上につなげている生徒の割合が約80%である。

質問①②の回答の理由としては、1学期と同様に「授業が楽しいから」という意見が多数を占めた。質問③④については、コミュニケーション活動やパフォーマンステスト等を通して、積極的にアウトプットさせてきたことが、結果の改善につながっていると考えられる。質問⑤の自由記述部分で、多数の生徒が「目標が明確化されて授業や学習に集中しやすい」と回答した。また、「目標を達成しよう

という意欲が湧く」「何をどのように頑張れば、評価が上がるのかが分かりやすい」という答えも一部に見られた。

(3) 実践のねらいと達成状況

ア 授業目標の設定と学習意欲の向上

質問⑤の回答から、授業の目標の設定と明示が、生徒の学習意欲の向上に大きく関わっていることが分かった。パフォーマンステスト時に、ルーブリックを提示したり、振り返りを行ったりすることを通して、評価やフィードバックの工夫を更に進めるだけでなく、考査を出題する際にも、その内容が授業の目標とつながっているかを確認する必要があると改めて感じた。

イ 言語活動と CAN-DO リスト

生徒の活動の様子を観察していると、読解や聞き取りで内容を理解できることよりも、発した英語を相手に理解してもらう時の喜びの方がとても大きいようである。活動を通して達成すべき4技能の目標が CAN-DO リストによって明確になり、向上心をもってコミュニケーション活動やパフォーマンステストに取り組み、その評価としてフィードバックを受けられたことで、英語学習に対する見通しや前向きな姿勢が生まれたことが、「授業を楽しい」と感じている理由と考えられる。

ウ 授業の楽しさについて

2学期中間考査後のアンケートの自由記述部分で、英語の授業の楽しさについて尋ねたところ、約4割の生徒が「コミュニケーション活動ができること」と答えた。一方、教科書の内容を「仲間と協力して理解できること」と答えた生徒も約4割であった。アウトプットを中心とした活動だけでなく、内容を理解できたという達成感をもたせることで、英語学習への意欲を高めさせることができるということが分かった。

8 成果と課題

(1) 仮説1の検証

授業の始めに目標を示して、「何ができるようになるのか」「どのような力を身に付けるのか」ということを意識させることが、生徒の学習意欲の向上に効果があることを確認できた。

(2) 仮説2の検証

生徒アンケートの結果から、生徒はコミュニケーション活動への取組に楽しさを感じるだけでなく、主体的に英語を発し、ルーブリックを基に目標を達成しようと努力するプロセスで、達成感や充実感を得ていることを確認できた。目標設定に基づく言語活動と、その評価やフィードバックに基づく振り返りと次の目標設定というサイクルがあることで、生徒は、学びへの「やりがい」や「楽しさ」を実感することができる。CAN-DO リストの果たす役割の大きさも確認できた。また、「理解する楽しさ」も重要であると再認識できた。初見の英文をグループ・ワークを通して理解し、理解できた達成感や喜びを共有することで、学びの楽しさを実感できると考えられる。

(3) 今後の課題

本実践を踏まえ、定期考査の内容を観点別に精査し、生徒に自己の不足している力を客観的に把握させ、次の学びの段階に向かわせるようにしたい。3回目の調査(平成29年10月実施)で、「授業が楽しい」と記述した生徒の学習意欲を更に高めさせられるような、指導と評価の在り方を考えていくことが今後の課題である。

Lesson 3 Yanase Takashi: The Creator of Anpanman

【単元の目標】

- ① アンパンマンの作成から人気を博すまでの過程を理解し、やなせたかし氏のヒーロー像に迫る。
- ② グループで説得力のあるプレゼンテーションを作成・発表することができる。

I. コミュニケーションへの関心・意欲・態度

- ① アンパンマンややなせたかし氏、または自分の好きなマンガなどについて、知っていること・思っていることを発言しようとする。
- ② 本文を読んだ後に、ペア・ワークを通して自分の意見を言ったり、相手の発表をしっかりと聞きこうとしたりする。

II. 外国語表現の能力

- ① 受動態, SVOO, SVOC, SVO(O=that-節, wh-節, 疑問詞 + to-不定詞)を用いて、正しい文を書くことができる。
- ② 各パートの内容を簡潔にまとめて話す／書くことができる。
- ③ 本文中の表現を他の表現で言い換えたり、紙面中の写真・イラスト等を英語で説明したりすることができる。

III. 外国語理解の能力

- ① アンパンマンの「通常のヒーローとは異なる」特徴について理解できる。
- ② やなせ氏が、アンパンマンを生み出した経緯と初期に受けた批判について理解できる。
- ③ やなせ氏が誰から評価を受けて、どう感じたかについて理解できる。
- ④ 関連する英語を聞いて、理解することができる。また、正しく発声することができる。

IV. 言語や文化についての知識・理解

- ① 受動態, SVOO, SVOC, SVO(O=that-節, wh-節, 疑問詞 + to-不定詞)の用法を理解している。
- ② 『アンパンマン』に込められたやなせ氏の「真のヒーロー」についての思いを理解している。

資料B

豊野高等学校 CAN-DO リスト

	1年生	2年生	3年生
話す	<ul style="list-style-type: none"> ● 身近なテーマについて、相手に質問をし、答えることができる。 ● あらかじめ自分の考えや説明をまとめ、それを聞き手に伝えるように発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 質問に対して答えるとき、何か新しい情報を付け加えることができる。 ● さまざまなテーマについて、文章の流れや聞き手への分かりやすさを意識しながら原稿をまとめ、発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 質問に対して答えるとき、新しい情報を加える、相槌を打つ、質問を返すなどをし、会話を発展させることができる。 ● ディスカッションなどで自分の役割を意識し、場に応じた英語をその場で考えて発話できる。
書く	<ul style="list-style-type: none"> ● ブレーンストーミングができる。 ● 文法的な間違いを恐れず、英文を書くことに親しむことができる。 ● 身近なテーマについて、Topic Sentence, Reason 1, Reason 2, Reason 3 (Counter Argument), Conclusion の5文以上で自分の意見を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● さまざまなテーマについて、文と文のつながりを示す語句に注意し、また客観的な理由を述べながら、100語程度で自分の考えをまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● さまざまなテーマについて、自分の考えや関連する情報を基に、150語程度で論理的な文を書くことができる。 ● 教科書等で習った英文に関して、自分でまとめ直し、要約文を書くことができる。
聞く	<ul style="list-style-type: none"> ● 短い対話文やスピーチを聞いて、情報や考えなどを大まかに理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 対話文を聞いて、話の要点を理解することができる。 ● アナウンスやニュースのようなある程度まとまった内容の要点を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 対話文や、まとまった内容の英文を聞き、必要な複数の情報を聞き取ることができる。 ● 英語で聞き取った情報を基に、その後の展開を推測したり、答えを導き出したりすることができる。
読む	<ul style="list-style-type: none"> ● 未知の語があっても、英文を読み通すことをあきらめず、とばしたり意味を推測したりしながら、文章全体の大まかな内容を把握することができる。 ● 簡単な問題 (T or F 問題等) を解くのに必要な根拠となる箇所を見つけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 速読で本文の内容をある程度理解できる。 ● 前後の文脈から、未知語の意味を類推して英文を読むことができる。 ● パラグラフリーディングを意識し、段落ごとのまとまった意味を考えながら読むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 速読で本文の内容をほぼ理解できる。 ● 論理性のある文章を読むときに、Topic Sentence や Reason, Counter Argument 等を意識しながら、文章全体の構成を把握することができる。 ● 必要な情報を、英文の中から短時間で正確に見つけることができる。

資料C

(42). Do you think studying is important?



(47). Can you play the piano?



(53). Can you cook?



資料D

Lesson 3 Part1 Yanase Takashi: The Creator of Anpanman

Summary
In Japanese
In English
Which do you like better, Anpanman or Baikinman? Why?

資料E

If you don't help Anpan-man, I will



The following is the message from Anpan-man:

"I'm in a big trouble. I am fighting against Kori Oni (an Ice Demon : 氷鬼) and I hurt myself. Now Anpanman-go(アンパンマン号) is broken, so Uncle Jam(ジャムおじさん) cannot help me. So, I need someone to help me!!"

Question: Which is the best character to help Anpan Man?

1. Choose the best character from the characters list (or Make an original character).
2. What can the character do? You can make an original and useful skill.
3. Make the best presentation in your group and Win!

Character's Name	
What can the character do?	

Presentation

< Evaluation Points >

1. Eye Contact

A よく顔を上げている B 顔を上げようと努力している C ほとんど上がらない

2. Voice

A 聞き取りやすい B 所々分からない C 聞き取りづらい

3. Contents (内容)

A 分かりやすい B よい C 分かりづらい

4. Impression (全体的な印象)

A 大変よい！ B 結構よかった！ C もうひとがんばり！

< Evaluation Sheet >

Make a circle for each articles for the speakers.

Group Name			
1 Eye Contact	A B C	A B C	A B C
2 Voice	A B C	A B C	A B C
3 Contents	A B C	A B C	A B C
4 Impression	A B C	A B C	A B C
Comments			

<Self-Evaluation>

Write 3 POINTS about your presentation:

One is about today's looking back: good points and not-good points.

The second is about next goals.

The third is free comments.

You can write in Japanese (or English).

